

公益財団法人 日本骨髄バンク 第107回 業務執行会議 議事録

開催方法:WEB 会議形式で開催

(本会議を WEB 開催することに関して全理事の同意を得た)

日 時:2025 年(令和7年)12月12日(金)17:10~17:50

出 席:岡本 真一郎(理事長)、佐藤 敏信(副理事長)、日野 雅之(副理事長)、
浅野 史郎(業務執行理事)、石丸 文彦(理事)、大西 達人(理事)、鈴木 利治(理事)、
高橋 聡(理事)、橋本 明子(理事)、福田 隆浩(理事)、岩崎裕彦(監事)、沓沢 一晃(監事)

欠 席:瀬戸 愛花(理事)、

陪 席:細川 亜希子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐)
高波 直樹(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室係長)
栗和田 統眞(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室)
古舘 賢一(日本赤十字社血液事業本部技術部造血幹細胞事業管理課参事)

事務局:小川 みどり(事務局長兼ドナーコーディネート部長兼医療情報部長)
田中 正太郎(総務部長)、関 由夏(移植調整部長)、水口 詞代(広報渉外部長)、
荒井 茂(総務部TL)

(順不同、敬称略)

1 開会

2 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第6条により、本業務執行会議が成立した。

3 議長選出

業務執行会議運営規則第5条により、業務執行会議の議長は理事長があたるとされ、岡本理事長が議長に選出された。

4 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第8条により、議長及び出席した構成員が記名押印する。岡本理事長、佐藤副理事長、日野副理事長、浅野業務執行理事がこれにあたりとされた。

[議 事]

1 報告事項(敬称略)

(1)寄付金報告 … 田中総務部長

令和7年11月度は 950 件、698 万円の寄付をいただいた。12月はバンクニュースの発行があるため、影響があると思われる。

(2)採取件数・患者登録数報告 … 田中総務部長

令和7年11月の採取件数は国内 BM60件、国内 PB37件、国際1件、合計97件。過去2年の平均程度で推移。国内の患者登録者数は149名。

(3)調整医師新規申請・承認の報告 … 関移植調整部長

令和7年11月は、新規申請2名、異動・辞退5名、現在数 1,273 名。

(4)骨髄バンクニュース67号発行について … 水口広報渉外部長

本年12月2日に骨髄バンクニュース67号を発行。ドナー登録者と寄付者合計48万件近い方に郵送した。また来年6月末まで全国のドナー登録会会場や日本赤十字社の各施設等で配架、配布される予定。

表紙は「HERO'S LIFE」と題し、多発性骨髄腫で自家移植経験のある写真家の幡野広志さんが、適合を待つドナー登録者の素顔を切り取る企画として、滋慶学園 COM グループの専門学校に通い俳優を目指している大西彩矢さんにご登場いただいた。

「HERO'S SUPPORTER」というコラムで、同じ滋慶学園 COM グループの先生の協力も得て、骨髄移植推進ミュージカル「明日への扉 Hospital Of Miracle」を紹介。

プロジェクトオレンジ活動報告として、各地でユースアンバサダーらが活躍している様子や、読売巨人軍の皆さんの活動を紹介する他、「ちょこっと座談会」として末梢血幹細胞採取、持続型 G-CSF を紹介している。

(5)国際コーディネートにかかる患者負担金概算払いについて … 関移植調整部長

国際コーディネートにかかる患者負担金に関する内規別表の変更について報告する。

海外ドナーから国内患者が提供を受ける際の患者負担金について、コーディネート行程開始前に概算額を支払ってもらい、入金確認後コーディネートを進めるという運用を、前記内規により令和5年5月から行っている。内規制定後、為替レートの変動や海外バンク料金の値上げにより、11月に全体的に概算額の改定をした。運用開始後初改定のため報告。今後為替レート変動や料金改定があった場合、適宜改定をしていく。

(6)Asia-Pacific Registries Meeting in Hong Kong 報告 … 小川事務局長

9月15日、香港で第2回目 Asia-Pacific Registries Meeting が開催された。各国の取り組みについて紹介したい。

中国について。ハイレゾリ्यूション HLA タイピング結果を持つドナーは、2013年に約30%であったものが、今は63%に。検索開始から移植までの中央値が90日。最速1週間というケースもあったとのこと。

台湾について。いろいろな人達に合わせた、メッセージを伝える資料や資材を充実させている。YouTube 動画、絵本、ドラマ、カードゲーム、漫画なども作っている。ボランティア向けに話し方等の研修も行っている。

アメリカ CIBMTR (Center for International Blood & Marrow Transplant Research) から。8/8 マッチと PTCy 使用 7/8 マッチで、3年 Overall Survival (全生存期間) 及び GVHD や再発もなく生存している割合の2種類を比較し、両者で違いがなかった。また、近年 PTCy の普及を受け、世界中で mismatches ドナーが注目されている。7/8 マッチも視野に入れば、ドナーが見つかる確率が増え、どの人種でもドナーとなりうる人が格段に増えるというデータが示された。

ミスマッチの若い非血縁ドナーからの移植が増加している。以前はハプロ:ミスマッチが4対1であったものが、現在 1.2 対1とほぼ同等になっている。

ドナーの年齢別移植成績について。18歳と比較すると、31歳以上は OS に大きな差があるが、19歳～30歳は18歳とさほど差がなく、30歳以下であれば何歳を選んでもよいと言っている。

ミスマッチ非血縁ドナーはハプロと同等かそれ以上。また、ミスマッチドナーまで広げればほぼすべての患者にドナーが見つかり移植が広がっている。

WMDA のデータとして、以前から PB の方がとても多い。PB の方がドナーの採取後の負担が少なく社会復帰も早いので、JMDP としても PB をもっと増やしたいと思っている。また、海外では通常、適合から14日未満で確認検査実施している。JMDP では30日要しているのので、ここを短縮したい。

世界的にもドナーの負担や制約時間を減らして応諾率を高めたいということで、色々取り組んでいる。例えば採取時に入院をしている国はほぼなく、日本ぐらい。ドナーは、PB、BM にかかわらず採取後その日のうちに、しかも日中自宅に帰る。

G-CSF の投与は、ほとんどのバンクが自己注射を採用。シンガポールなどはドナーが選択できるが、ほとんどのドナーが自己注射を選択している。ちなみに日本は薬剤の添付文書で自己注射はできないことになっているが、ジーラスタが導入されたので、入院しなくてよいパターンもある。

日本ではドナーが提供するにあたり家族の署名が必要であることに関し、他国の参加者は驚いていた。家族との関係が非常に強い国はアジア内にいくつもあるが、ドナー自身が家族と話し、反対がないことを確認しているとのこと。(WMDA:家族に署名を求める国は日本以外ない)

ドナーの本人確認検査について。HLA が本当にドナーのものかを確認することをどの国でも基本的に実施しており、日本でも行程の早い段階で実施している。ただし、移植を一刻も早く行う場合には、採取日の採血で本人確認検査をする。移植した後に取り違いがわかる可能性はゼロではないが、稀なケースを事前に防ぐため全員の移植を遅らせるわけにはいかないことから、このような手法も考えている、という話をしていた。合理的ではあるものの日本ではなかなか受け入れられないかもしれないが、このような考えもあると参考になった。

(7)その他(スワブトライアル3の開始時期について) … 荒井 TL

スワブトライアル3の開始について、1月20日からと決定。来週発行の Monthly JMDP を皮切りに、各種プロモーションを行い、目標 3,000 人登録を早期に達成したいと考えている。

(8)その他(アンケート調査の概略について) … 福田理事

今後発表予定の家族同意とドナーのモチベーション保持に関するアンケート結果について、概要の共有を受けた。

以上